

(3) 昭和八年

E-1860

02 10

通商局

公普通第三四六號

昭和八年四月十八日

別紙

昭和八年四月廿四日接受
添付

在滿洲國

日本帝國大



外務省
通商局 御中

日本製茶滿洲國輸出振興方ニ關スル件

本件ニ關シ茶業組合中央會議所會頭中村圓一郎ヨリ別紙寫ノ通請願越
ノ次第アリタル處滿洲國當局ト交渉ノ必要上具體的事例ヲ詳細揭示申
來ル様前記會頭へ御傳達相成度此段申進ス

在滿日本帝國大使館





請願書

製茶滿洲國輸出振興ニ關スル件
 滿洲國ニ於テ消費セラルル製茶ハ最近ノ調査ニ依レハ其數量年額實ニ
 壹千萬斤以上ニシテ殆ト支那茶ヲ飲用シ日本茶ノ輸入セルモノ極メテ
 僅少ナルノ状態ナリ滿洲國ト我國トノ親善ハ日々愈厚ク貿易モ亦逐次
 進展セントスルノ狀勢ニアルハ日滿兩國ノ將來寔ニ慶賀ニ堪ヘサル所
 ナリ此時ニ際シ我營業者ハ日本茶輸出貿易ノ開始ヲ企劃セシモ滿洲國
 稅關ハ我輸出茶インボイス面ニ記載セル價格ヲ無視シテ高價ニ之カ查
 定ヲ行ヒ高率ナル從價稅ヲ課シ日本茶ノ輸入ヲ拒絕セムトスルノ態度
 ナルハ獨リ日本茶ノ輸出貿易ニ對シ頗ル遺憾トスルノミナラス他ノ輸

在滿日本帝國大使館

出品モ亦同様ノ課稅ヲ受クルモノアルヘク斯クテハ日滿貿易ノ前途實
 ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ依ツテ政府ハ速カニ其實情ヲ調査シ適當ノ
 交渉ヲ遂ケ日本茶ノ滿洲國輸出貿易ノ振興ヲ期セラレ度茶業組合中央
 會議ノ決議ヲ以テ此段請願候也

昭和八年二月三日

茶業組合中央會議所
 會頭 中村 圓一郎

駐滿洲國全權大使 武藤信義閣下

在滿日本帝國大使館



300

地方民ニ對スル供給ヲ恢復シ便利ニスルコト、ナリ將來尙之ヲ擴
 張スヘク、同工場行ノ綠茶ハ浦潮ヨリ西伯利並ニ新設ノツルクシ
 フ、鐵道ニ依リ送達スルコト、ナリ居レリ。

キ 専門技師ノ言ニ依レハ、中亞綠茶需要者ハ綠茶飲用者ノ常トシテ
 本邦人同様ニ茶ニ對シ非常ニ鋭敏ナル感覺ト強キ嗜好ヲ有シ、地方
 ノ風土特ニ水質ニ依リ、ヤグリ、茶ヲ他ニ變ヘ難シトスルモノナレ
 ハ、益茶即チ亞米利加式茶ハ同地方人民ニハ不向ニシテ、ヤグリ、茶
 ヲ益茶ニ代ユル如キハ容易ナラサルヘシト。

キ 中亞キ於テ、綠茶ハ供給ハ、聯邦一般キ於テ、紅茶ト同様
 ニ非常ニ少ナク、現在ノ處需要ノ四分ノ一ニ及ハス、故ニ靜岡ノ益茶
 及臺灣ノ綠茶モ之ヲ補足スル爲メニシテ、右ハ主トシテ水質ノ良好

在オデッサ日本帝國領事館

報

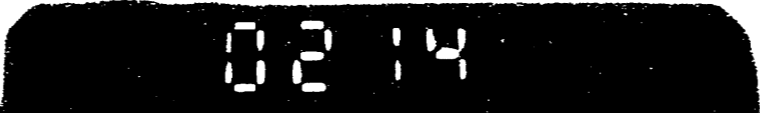
301

ナラサル西部平原各地方ニ、ヤグリ、茶ハ東部山地ニ供給セラレ
 居ル趣ナリ。

四 右ノ如ク昨年、ヤグリ、茶ノ靜岡益茶及臺灣綠茶ノ買付ハ、右
 ニ對スル新需要ノ發生又ハ中亞人民（ヤコルホズ、ソフホズ）
 ニ働ク勞働者トハ、一般農民ヲ指スモノナリ、ノ嗜好ノ變化ニ因ル
 モノニ非ス、且價格ハ、ヤグリ、茶ノ方低廉ナル由ナルヲ以テ、右ハ物
 資缺乏セル地方人民ニ對スル供給ヲ増加スルノ必要ニ迫ラレ、市場
 ノ狀況ニ願ミ之カ買付ヲカシタルモノニシテ、將來續行セラル、ヤ
 疑ハシク、ヤグリ、茶ノ需要ノ綠茶ハ依然、ヤグリ、茶ナリト認メラ
 ル。

綠茶ノ需要ハ今後モ増加スヘク、ヤグリ、茶ノ製茶業ハ高架索ノ

在オデッサ日本帝國領事館



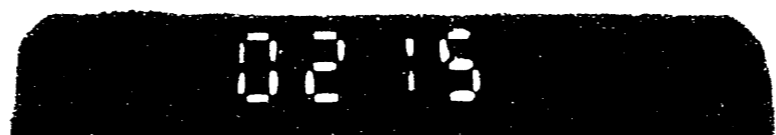
302

茶カ未タ豫定ノ成績ニ違セサルヲ以テ茲數年中ニ綠茶ノ製造ニ着手シ得ル見込少キヲ以テ綠茶ノ外國輸入ノ必要ハ減少セサルヘシ綠茶ノ輸入ニ當リ支那茶ハ本邦品ニ比シ尙未タ品質良好價格低廉ナル由ニ付露支復交兩國通商増進ノ今日ニ於テハ其競争ニハ注意セサルヘカラス

五 尙本邦製綠茶ニ關シ専門技師ノ批評ヲ求メタルニ本邦製茶ハ非常ニ進歩シ來レルモ今ノ處煙様ノ臭ノアルコトハ缺點ノ一トナリトノコトナリ

以上

在オデッサ日本帝國領事館



文書課長 (印)

文書課發送 昭和八年五月九日發送済

淨世

正校 (原稿) (印) 淨世

8 117

主 通商局長 (印) 主

通商局長 (印) 主

昭和八年五月八日 附屬

普通 第 255 號

昭和八年五月八日

附屬

通商課 (印)

茶業組合中央會議所

會頭 中村 園一郎

名 人 信 發 米栖通商局長

名 人 (芝居新橋三丁目番地三)

名 件 錄 記

日本製茶滿洲國輸出振興方三案付件

本件案之貴教于本年二月三日附書面以

于在滿洲國帝國大使へ請願相成之類

公 信 案

外 務 省

處處在貴信中御記載、滿洲國稅
系、我々輸出茶ニ付テ態度ニ及ニ共失
係的事例ヲ詳細ニ承知致度ニ付御
取調、上何各儀、御回答古事及

公 信 案

外 務 省

自付
島外

普通 第七八號

昭和八年五月二十七日

在葡

特命全权公使 笠岡 采

外務大臣御爵内田康哉殿



第二號

昭和八年六月拾六日 接受

商

邦茶ノ葡國市場ニ於ケル情況ニ關スル件
大日本茶業組合其他邦茶取扱商人ヨリ葡國市場ニ於ケル
邦茶情況照會有之付茲ニ本件ニ關スル^{在葡}調査結果ヲ
急報告ス 可然以查同相成皮シ

記

葡本國ニ對スル紅茶綠茶ノ總輸入額(一九三一年及)
二七八、四九六キロ。價格 四、九六三、三二四エスクード(邦貨時
價約八十万円) 内綠茶ハ大抵十六万エスクード(邦貨時價
二萬七千円) 見當タルツシ
然レテ今日迄葡本國ニ輸入セラル、綠茶ノ大部分ハ支那茶
ニシテ日本綠茶ノ輸入ハ非常ニ少シ
二、葡本國關稅ニ關シテ、支那綠茶モ日本綠茶モ共ニ最
低稅率乃チ一キロニ付金六十八センチポス乃チ時價十六エスク
ード、六十三センチポスヲ徵セラル。
以テ外ニ關稅附加稅トシテ關稅ノ二割 又海港稅トシテ
三付十二エスクード、又關稅手数料トシテ 徵收セラル。關稅
類五百乃至千エスクードニ對シ六エスクード、千エスクード

CH

以上、各々エスケード毎、四エスケード、午散料ヲ徴セラル
 唯、葡國、自國船舶特權制度ヲ實施シ居ル結果（即ちハチ
 二月廿八日附法廷普通通テ律廿八号）例之、日本
 茶ヲアンウエル又、備取之、日本船ニ依リ其後、葡口船ニ積積
 へ轉入スル場合、日本船ニ其、他、外國船ニ依リ葡口ニ轉
 入セラル、場合ニ依リ、葡復其、他、附の復ニ付六分ノ減額特典
 アルコトニ注意スルコト

三、緑茶、紅茶ニ比シ其、零支女甚カクナシ、緑茶ニ對スル
 葡國人ノ苦情、其、色彩、紅茶ニ比シ余リニサ博キニ在リ唯
 緑茶ニ對スル位偽（例之、此茶、立テ方其、他一般の位ニ
 フラ味ス）カ從來全出、行ハレ居ラカシ付以、占下ハ、茶葉者
 ニ於テ充テ注意ヲ要ス

日本緑茶、品質、蓋ニ其、テイストハ良好ナリト梅ニ付ハ、拘ラ ス其、素行キ一向ニ進捗セカシ、前述ノ理由ニ基テモ、ナラシ 支那緑茶ノ、市場ニ於テハ小量位ハ 上等（二キニ位）六十エスケード（十円） 中一（一） 五十エスケード 下（一） 四十エスケード 日本緑茶、梅ニ、而シテ 四エスケード、九十センチハ、又支 以上
--



海外經濟事情

文書課發送	昭稱八年六月廿壹日發送濟	淨書	正校(原稿)
主 管	通商局長	起草昭和八年六月十九日	第二課
通二 普通	第九三三號	昭和八年六月廿壹日附	附屬書
受 信	茶葉總合中央會 激所	發 信	東極色島白表
人 名	會中村田一印	人 名	東極色島白表
件 名	邦茶ノ南小市場ニ於テ之情況	名 達 綴	
本件ニ關シ直接在 葡 帝國 領事館宛調查方御依頼相成タル趣ヲ			
以テ今般同 領事館ヨリ別紙寫入 通回報アリタルニ付右茲ニ送付ス			
(昭和八年五月三十一日附在 館來卷 第七八 號第章附屬書 作成添付木コト)			

公 信 案

外 務 省

3.2

21

海外經濟事情

昭稱八年六月廿壹日發送濟

主 管 通商局長

通二 普通 第一二課

受 信 農林省 長瀬農務局長宛

人 名 長瀬農務局長宛

件 名 邦南小市場ニ於テ之情況ニ關スル件

發 信 東極色島白表

人 名 東極色島白表

名 達 綴 邦南小市場ニ於テ之情況

本件ニ關シ今般在 葡南小公使 ヨリ別紙寫入

通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

(昭和八年五月三十一日附在 館來卷 第七八 號第章附屬書)

公 信 案

外 務 省

21 73

八發第一六二號 昭和八年七月五日

茶業組合中央會議所
會頭 中村 圓



外務省通商局長 來 栖 三 郎 殿

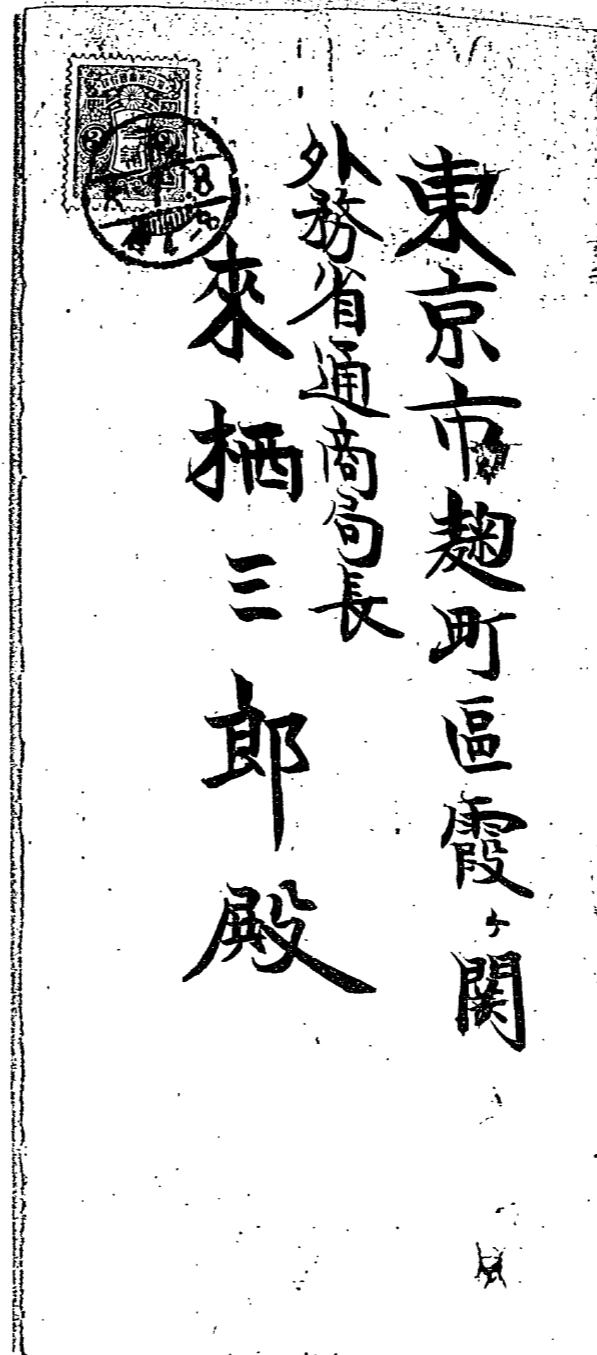
日本製茶滿洲國輸出振興方ニ關スル件

標記ニ關シ五月八日附通普通第六五二號貴翰ヲ以テ御照會被下候
滿洲國稅關ノ我方輸出製茶ニ對スル態度ニ關シテハ請願當時ニ於
ケル滿洲國稅關ハ我方輸出製茶ノ滿洲國輸入ニ際シインボイス面
記載價格ヲ無視シ品質ノ如何ヲ問ハズ日本綠茶ハ支那產最高級綠
茶珍眉ト同格ニ日本紅茶ハ印度產最高級リプトン紅茶ト同格ノ價
格ニ見積リ課稅セルヲ以テ滿洲國內ニ於ケル他國產製茶トノ競爭
上不利ノ立場ニ有之候處其後調査ノ結果當事者相互ノ折衝諒解ニ
ヨリ昨今ニ於テハ右不當課稅ノ事實無之様ニ相成居候間左様御諒

加納



承被下度 尙將來ニ於テハ價格見積並課稅ニ不當ナキ様御注意方
御取計願度此段回答旁々御依頼申上候也



E-1860

0222



東京市芝區新橋二丁目二番地三

茶業組合中央會議所

電話銀座(57)三三五八番
電信略號子ウ

昭和八年七月八日

E-1860

0223

通商局第一課

4.3.1.7)

文書課長

文書課發送 昭和八年七月拾五日發送済

淨書

四原

正校(原稿)

淨書

月十二日起草

14

25

別紙

主 通商局長

任 第二課長

通二普樹密

第二〇號

昭和

一

昭和八年七月拾四日附

附屬有

昭

和

年

七

月

在滿洲國

帝國大使館

通商局

通商局

茶栽培及取引

名

件 日本製茶滿洲國輸出振興方ニ付ス件

本件ニ付本年四月十八日附在普通第三〇号

ヲ以テ中級ノ級ノ了系在ニ付速ニ當地茶

公 信 案

外 務 省

諸公第一二五號

昭和八年七月十八日

在アレキサンドリア

總領事 北田正元

右坡西土

領事代理原田忠一郎殿

本邦製茶状況ニ関スル宣傳用フィルム

送付ノ件

昭和七年十一月七日附通ニ普通合オ一九六號ノ趣旨ニ
遵ヒ農ニ茶葉組合中興會議所ヨリ當館ニ送付
趣アリタル標記活動寫眞フィルムニ卷當館用濟ニ付
今般當地出張ノ高工技師杉村盛一氏ニ托シ貴館ニ送

在アレキサンドリア日本總領事館

付ス可然由處理相成度ヲ本フィルムニ其旨ノ送付先ニ付
テハ本者兼信由査面ノ上由知置相成度シ

本信寫送付先

外務大臣

在アレキサンドリア日本總領事館

324

日本製緑茶ニ就テ

(一) 概シテ公衆ハ日本緑茶精印ト標印ト向ニ別般ノ差違ヲ認メサレカ知レ

(二) 然レ亦モ日本緑茶ハ之ヲ露西亞式トシテ即チ牛乳ヲ入レズ、
 トロロシ及砂糖(時ニハソライハ酒ヲ加フ)ヲ用ヒテ飲ムトキハ
 美味ヲ呈シ、一般ニ賞味セラルモソノ如ク見受ケタリ。

(三) 朝食ノ際牛乳ヲ交ヘテ與ヘタルカ好ミタルモノ殆クト感シ

(四) 是レ疲勞ヲ慰ムル爲医藥代リニ用ヒタルモノニテ就寢前
 又ハトランプノ際ニ珈琲代リトシテ愛用セリ。

(五) 自宅ト於テ蜂蜜ヲ交ヘ且熱クシテ子供ニ與ヘタルニ大ニ
 喜ベリ、尚風邪ノ際ニモ之ヲ用ヒテ有效ナル結果得ル。

(六) 英國人ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ好マザリレカ、佛國人ハ

在アレキサンドリヤ日本總領事館

325

之ニ及シ医藥ノ代用トシテ喜ンデ飲用セリ。

(七) 埃及人ハ牛乳ヲ用ヒス砂糖ヲ多分ニ入レテ愛用セリ。

依テテ願フ若シ價格ヲ低廉ナラシメ宣傳ニ努カセバ、
 アラビア人向ニ廣ク傳播普及スルコトモ遠ク困難ナラザ
 ルトモヤニ見込テラレ

(八) 緑茶モ亦煙草ト同様ニシテ例ヘハ、ウヰニアニ煙草ニ馴
 レタルモノハ、容易ニ他ノ煙草ヲ吸ヒ難キカ如ク、緑茶ノ有スル
 特殊ノ味ニモ之ニ馴ルル迄ニハ相当時日ヲ要スルモ然レ
 一旦其ノ習慣ヲ附ケタルモノ之ヲ棄スルコト亦ハ困難ナ
 リ如ク思フベシ

(九) 然レ亦ラ緑茶ニモ芳氣スヘキモノナレド、就中色ト
 香ノニ異ナリ。

オ一緑茶ノ色カ、支那茶、セイロン茶ノ如ク異味ヲ呈セザルハ

在アレキサンドリヤ日本總領事館





海外經濟事情揭載濟
昭和八年八月廿壹日發送濟
第 6 年第 4 5 號

記 29.3.1.7-1

公文書課長 文書課發送 昭和八年八月廿壹日發送濟 淨書 昭和八年八月廿六日起草 別紙	主 管 通商局長 3	任 主 通商總課長 3	日 附 附屬 有	昭 和 年 八 月 廿 六 日 起 草	校 正 (原稿)	淨 書 (淨書)
	通 信 第 一 二 六 二 號 昭 和 年 八 月 廿 六 日 起 草	受 信 人 名 茶書組合(中央) 會議部	受 信 人 名 茶書組合(中央) 會議部	記 録 名 件 茶書組合及取了茶書 本印産總茶部	發 信 人 名 通商局	發 信 人 名 通商局
公 信 案	件 名 本邦製茶見本ニ関スル件	件 名 本邦製茶見本ニ関スル件	件 名 本邦製茶見本ニ関スル件	件 名 本邦製茶見本ニ関スル件	件 名 本邦製茶見本ニ関スル件	件 名 本邦製茶見本ニ関スル件
外 務 省	日 本 製茶見本在外分館 及送付等件	日 本 製茶見本在外分館 及送付等件	日 本 製茶見本在外分館 及送付等件	日 本 製茶見本在外分館 及送付等件	日 本 製茶見本在外分館 及送付等件	日 本 製茶見本在外分館 及送付等件

30 5

E-1860



公 信 案	外 務 省	<p>今般在「アレキサンダー」北田臨時事務所より別 紙算入通帳番号有るを以て付有通帳番号 右紙を以て付有</p>	<p>七月廿六日附アレキサンダー電信第二〇九号 臨時事務所算入通帳ノ上添付ノト</p>
-------------	-------------	--	--

E-1860

0231